慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	地域的社会調査に関する若干考察
Sub Title	
Author	奥井, 復太郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.6 (1936. 6) ,p.819(37)- 850(68)
JaLC DOI	10.14991/001.19360601-0037
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360601-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

地域的社會調査に關する若干考察

奥井復太郎

序

都市社會學の一中心問題に、かの社會群態學的研究がある。群態學とは或る一定地域に於ける生物の生活態様及び其の變化を研究するものであるが、都市社會學に於いては、都市領域内の特定地域内に於ける社會群の生活態様及び其の造出物並びに其等の變化等を研究する。其れ故に群態學的研究は必然に其の地域の社會調査を重要な方法及び手段とする。即ち、特定地域内に於ける構成要素、その造出物等に就いて諸般の關係を調査して精密なる基礎資料を用意せねばならぬ。都市社會學の體系に此の種の群態學的研究が果して如何なる地位を占めるかの問題は今回の論文の目的ではない。筆者は此の地位を比較的に高く評價する者であるが、此の問題は他日に讓る。茲では、地域的社會調査の方法に就いて若干の考察を試みたいと思ふのである。

一

先づ既に行はれた地域的社會調査の一、二に就いて觀察しよう。嘗て本誌に紹介したF・ライデン著「大伯林」

は、或ひは嚴格な意味では社會調査と云ふ事は出來ないが、大都市「伯林」の記述を地理、氣候、植物、聚落（都鄙的）、大伯林、人口、交通、經濟、人情風俗の九項目に分けてゐる。（本誌昭和八年十一月號參照）斯くの如き分類法は普通一般に各市各地方の狀勢要覽等に於いて採用せられてゐる分類である。故にかゝる九項目に亘つての分類丈けでは充分、地域社會調査とは云ひ難いかも知れない。今、手元に湘南地方の一町勢要覽があるが、其の項目を見ると、（一）名稱沿革、位置地勢、氣象、土地、戶口、教育、社寺宗教、通信交通、警察兵事消防、衞生、社會事業、産業、財政、有權者名譽職吏員（政治）、富度、金融・諸會社、都市計畫、史蹟舊蹟等に分たれてゐる。之れは勿論、町役場編纂のものであるが故に、公共團體的活動の要覽たる事を主眼としてゐる。

純然たる地域的社會調査としての文獻に近來出版されたニューヨークの「グリニッヂ・ヴィレッヂ」の調査がある（Caroline F. Ware: Greenwich Village 1920-1930: A Comment on American Civilization in the Post-war Years. 1935）本書の分類法によると、大別して COMMUNITY と PEOPLE と INSTITUTION の三部門に分たれ、第一のものに此の地域の總括的敍述殊に人口情勢と經濟的活動とが含まれ、第二の部門には、住民の社會性を主題として、其の人種的構成が詳細に論ぜられてゐる。第三の INSTITUTION の項に於いては、政治、宗敎、敎育、娛樂、社會事業及び施設並びに家族が取扱はれてゐる。

之は本格的な社會調査であるが、之れによつて見ても地域的社會調査と稱するには、調査項目の如何よりも寧ろ調査方法に主眼があると思はれる。例へば研究領域は異るが R. Cassady と H. J. Ostlund の共著「小都會に於ける小賣配給の機構」はその方法が社會調査的であると云つて差支あるまい。（The Retail Distribution Structure of the Small City, Based on a Study of the Waseca, Minnesota, Retail Plant and Trade Area. 1935 The University of Mimnesota Press. No. 12.）本書の研究部門は（一）緒論（二）市場地域（三）顧客動機（四）小賣店の金融及營業分析（五）經營政策及方法（六）小賣配給制度の評價等であつて、吾々にとつて興味あるのは、小賣配給制度上の問題よりも、他の方面例へば市場領域決定について執られた方法、或ひは特定商店に就いての顧客心理の調査等の調査方法についてである。故に本稿は地域的社會調査の考察を、其の目的に對する手段即ち方法に關聯せしめて研究したいのである。

二

先づ第一に問題となるは地域の撰定である。群態學的研究に於いては、地域の撰定は研究對象の重要なる一部を構成するが故に、最も主要關心を含むものである。地域の撰定に當つて二つの方法がある。一つは漠然と特定地域を撰定する方法であり、他の一つは、或る目的に關聯せしめて地域を撰定する事である。或る特定の地域について特殊の便宜を有するが故に先づ其の地域を撰定し、之れを調査して其の特色を出さうとするは、第一の方法である。しかし、此の方法は、一つの研究體系の內に在つて研究せんとする者によつては採用せられない方法である。蓋し、特殊の研究體系を持つた者は、常に研究對象の撰定を、自己の研究體系に關聯せしめて行ふから、茲に於いて吾々、即ち都市社會學的部門に於いて研究する者、乃至は社會群態學的研究に志す者にあつては、地域の撰定が豫め、全

體的關聯に於ける或る觀點から決定せらるゝと云ふ第二の撰定法をとる事になる。

都市社會學が都市研究の方法に於いて與へた二つの貢獻は、複雜なる都市現象中の唯一つと雖も、都市全體の關聯に於いてのみ把握せらるべしと云ふ事を明かにした點に在る。從つて、貧民窟、文化住宅地區、商店街等々の地域は、都市全體の發展過程に於いて把握理解せらるゝと共に數百萬の人口中に於ける一生活型、例へば「蒼白きインテリ」と稱せらるゝ樣な都會人型も數百萬の人口集團を含む一大都市全體の構成に於いて理解せられるのである。

スモール・ヴィンセント共著の「社會學研究序論」は名著であり、殊に「一社會の發生史」の一章はアメリカ中部地方に於ける大都市發生を人跡未踏の草原時代から說き起して、極めて巧みである。其の敍述は多分に文學的である。將來の希望に燃ゆる開拓者の若い夫婦を捉へ來つて、大自然との鬪爭協力の過程に於いて文化を築き上げる經過が此の夫婦を中心として巧みに描かれてゐる。しかし此の描寫方法は此の社會の發達が村落時代に到つた時を以つて終り、以後の小都市、大都市への發達に至つては、即物的な說明及び報告を以つて終つてゐる。例へば、此の社會の宗教生活を物語る方法として、前の場合には、日頃の自然との生活上の惡鬪に疲れ切つた若夫婦は日曜日には故鄕より持參した聖書及び若干の宗教書を以つて敬虔な祈りの內に安息日を見出すと同時に、過去及び現在を追懷反省して再び將來の希望を奮ひ起して明日からの奮鬪を誓ふ場面が輕妙に書かれてゐる。しかし大都市時代にあつては、市內全部で教會が幾許、其の組織及び宗派的勢力が如何と云ふ、極めて非文學的な即物的な敍述で終つてゐる。勿論、此の書の著者は小說を書く意圖を持つた者でないからして、此の種の描寫上の變更は許される。又大都

市生活と其の組織、構成を文學的方法を用ひて描寫するとなれば、簡潔に取扱ふ事は不可能とならう。併し、こゝで筆者が述べたい事は、大都市の場合に於いても一人物を拉し來つて、大都市そのものゝ特色を描出する事は學問的に不合理でないと云ふ點についてゞある。即ち一部は全般的に、個は全體的に制約されてゐる。吾々は一部、一個を通じて全般、全體の關係を知り得るのである。

かゝる故に調査上に於ける「地域」の撰定は漠然唐突に行はれるものでなくして、全地域、全生活との關聯に於いて行はるべきものである。例へば最近本誌に發表した、東京のビルディング街の調査は、丸の內を中心とした地域を撰定してゐるが、此の地域は東京都心地帶として地域的特性を有してゐる。其の特性は、大東京發達の過程に於いて理解される。即ち總人口の增加と市街地域の外方的膨脹の發展過程中に含まれる。それ故に郊外人口の增加と集中的交通網の完成とに結びつけられ、日常生活上の現象としては晝間人口の巨大群、同時にラッシュ・アワーとして現はれる。故に丸の內の地域調査は此の全體的約束の中に撰定されてゐる。（本誌昭和十一年一月號參照）

斯くの如くして地域撰定は、重要な先決問題である。而して此の場合、撰定に當つて吾々を指導するものは、研究の全體系より發する豫想である。此の豫想が實際の調査方法を歪めてならない事は自明であるが、調査方法が歪められざる限り、調査結果の成績は此の豫想を肯定し又は否定し、或ひは修正する。其の結果に基き吾々は全體の體系を確立し、或ひは修正し、或ひは放棄しなければならぬ。

故に「地域撰定」に當つては、全體に於ける其の特殊性が標識となる。特殊性は數次に分析する事が出來る。例

へば「盛り場」なる地域は一般的には「盛り場」全體を第一次の特殊性として取扱ふ事が出來る。しかし個々の「盛り場」については、各種の第二次特殊性を標識として檢出しなければならぬ。例へば「銀座」的特殊性、「淺草」的特殊性の檢出は第二次的分析である。此の第二次特殊性と雖も（否寧ろ此の第二次特殊性の方がより强く）全體的關聯に於いて規定されてゐるのである。

次に「地域」の概念に就いて若干說明を加へて見よう。「地域」とは唯、の面積ではない。其處に或る特定の統一性の（其の强弱は別問題として統一性そのものゝ）存在する面積的擴張を指すのである。かゝる地域を稱して吾々は QUARTER 又は VIERTEL と呼ぶ事が出來るであらう。クォータアとは何等の特定のものを持つた地域を指稱する。故に Arbeiter Viertel と云ふ場合、吾々が「勞働者街」と呼ぶに應はしい。

此の統一性は何をモメントとするか？ 前記「勞働者街」なる場合、統一性は「勞働者」なる身分に在る。「別莊町」と云ふ場合は「別莊」なる住宅形式の內に盛られた生活內容が統一性のモメントとなる。唯何れの場合にも此の統一性に基いた特殊性が强調され、それは直ちに外部からの獨立性乃至は絕緣性を意味し、それ自體の地域的封鎖性を示す。故に「地域」とはある統一性に基いて封鎖せられ、外部とは一應切り離された空間を指稱するものである。此の統一性の中にあつて吾々の立場から最も邪魔になるものは行政的統一である。行政上の統一とは、縣、市、區、町等の行政區劃によつて示される。此の區劃が社會學的經濟學的に地域的統一性を示してゐない事は筆者の屢々論じた所であるが故に反復する要を見ない。最近のものとしては慶應義塾學生について行つた學生現住所の分布

について云ふならば——大森區現住者〇〇名、品川區〇〇名、目黑區〇〇名、澁谷區〇〇名として現はす。しかるに現實に調査すれば品川區居住者の大部分が地域的に大森區又は目黑區に接近してゐたり、目黑區のそれは澁谷區芝區に接近してゐたりする。故に、此の特殊地域を取り上げて來ると、例へば學生町乃至は學生居住地の特色が最も濃厚となる。反之、行政的統一を以つてすれば、其の結果が稀薄となる。

此の種の關係は今回吾々の手に行つた三田街社會調査に於いても最も明瞭となつた。此の調査に於いては、單位地區の區別に警察行政地區を用ひた爲めに非常に豫想以外の結論を出した場合がある。例へば慶應義塾の所在する地區は慶應義塾の大部分（幼稚舍、普通部を除く）と三田通りに面した山の下の商家の一列を含む地區で、面積上で云へば商家の部分は極めて僅かである。それにも拘らず、此の地區が商業地帶として最優位の一つとなつて現はれた。之れは決して間違ではない。蓋し、此の地區は三田通の商家の占める部分について丈け見れば、最も商業的な地區であるから。同時に慶應義塾の占むる面積は此の地區の最大部分であつても學校所在と云ふ事以外の他要素、例へば住宅か工業と云ふ方面に於いては殆ど勢力が皆無に等しいから。故に此の地區についての調査資料は「學校」關係を無視すれば三田通に面した一小部分のものであり、從つて純然たる商業的要素であるが、警察行政地區としては、學校を含む廣大な擴りを持つが故に、此の地區別を尊重する限り此の廣大な地區全體が商業地區として優勢を示す結果となつたのである。

斯くの如き事情は前記調査のいづれに於いても云ひ得る。此の地區別方法による限りそれ丈け純社會學的調査として結論に混濁を生ずる。吾々が若し完成を期するならば、之れを當然修正しなければならぬ。唯、玆に地域的調査を行ふ者を最も苦しむる難關が存するワケである。蓋し、吾々自身の手に於いて行ふ現地調査は往々にして、調査成績の良好を期し難い。反之、官憲の手に於いてするそれは、廣範圍に亘つての成績は收め得らる。調査者が相當大なる權能を持たぬ限り、此の種の難點は吾々の免れ難きところである。

三

次に撰定せられた地域に就いて何を調査すべきかの問題に移らう。特殊部門の調査としては、その地域についてその部門關係のもの丈けを調査すれば差支ない。例へば、所得調査の場合には、所得狀態がその調査對象となる。しかし本稿に取扱ふ意味での「地域調査」に於いては、事情が多少異つて來る。こゝで筆者が目的としてゐる調査は、その特定地域の上に含まれてゐる社會集團とその生活樣相を全幅的に取り上げて地域的特殊型を示したいのである。それ故に、或ひは社會踏査（サーヴェー）と呼ばはる可きものであるかも知れない。其の稱呼の如何は兎に角として、吾々は調査の對象を特定の生活內容と樣相とを以つた社會地域即ちコムミュニティーに求める。即ち一つの社會體としての集團を求めるのである。

此の社會體の本質、構成、內容及び體樣、それ等に於ける特殊性を檢出する上に於いて、如何なる方法によつて調査し、如何なる對象を撰ぶ可きか。こゝに調査對象は、當然、その社會的內容に關聯せしめらる可きものでなければならぬ。換言すれば、生活內容が客觀的に表現せられたもの、それが吾々の對象となる。此の兩者（即ち內容とその表現）については後段に又述べる。以下、主な種目を探つてみよう。

綜合的社會體としての集團を對象とするが故に調査す可き項目は當然、前項に述べた樣に多方面に分れる。第一に「地域の地理的關係」が擧げられる。此の地理的關係については特に詳細を論ずるまでもない。唯特定地域のそれは、全體地域の地理との關聯に於いて理解さる可きである。更に地理的關係に就いて述ぶ可きは、自然地理的要因の敍述と共に文化地理的要因に重點を置かねばならない。例へば嘗ての機會に於いて述べた樣に「盛り場」の成立には可成有力に歷史的文化的要因が作用してゐる。從つて初期又は發生期に於いて有力に作用した地理的要因は、其處に累積された文化によつて、必しも本來的の意義を保有せざるに至り發展の後段に至つては、斯くの如く人文的に決定せられた地理的關係即ち歷史的要因がむしろ有力となつて來るのである。勿論發展過程の變化に伴つて地理的に移動を見る場合もある。東京に於ける中心盛り場が日本橋界隈から銀座に移り、其の銀座に於いても、京橋寄りの中心が新橋寄りに移行した如き場合を擧げる事が出來る。しかも、現在銀座の盛り場としての成立には、舊日本橋の持つ傳統と文化との作用を否定する事が出來ない。單的に云ふならば江戶時代の盛り場乃至は中心街としての日本橋の撰定には、地理的要因が有力であつたかも知れないが、其處が一度、中心街と定められ、之れを中心として其の上に色々と文化、人工が加へられると江戶乃至東京自體の發展が之れを基礎となるに至り、其れが後來の發展方向を規定する次第となるのである。換言すれば「日本橋が中心街なるが故に」と說明せらるゝ樣になるの

である。之れは單なる自然地理的要因とは云へない。茲に人文的な傳統的な要因と結びついた地理的關係を見とめねばならぬ。

從つて吾々は之れを茲に交通地理の問題として提唱する事が出來る。地域社會學にあつては、距離即ち交通し得可き地理的關係は最も重要な對象である。吾々は常に距離的關係に於ける地理的情況が交通關係によつて修正されてゐる事をよく知つてゐる。從つて唯單に距離を云はずして、交通時間距離を重要視する。純粹地理的距離と此の交通距離との偏差を求める。大都市生活圈の決定に當つて純粹地理的距離に於いて十哩乃至は三十哩を隔てた地理的には均等ならざる各地域が交通時間的には等距離に在ると云ふ事が出來る。（本誌昭和九年十月號參照）而して此の交通地理的關係は、又既に述べた全體への關聯と同意義でもある。蓋し、より大なる社會的綜合體に編み入れられた或る特定地域についての交通地理的關係とは、全體中に占める其の特定地域の位置に外ならないから。特定地域の領域内に限らるゝ交通地理の關係は多少共之れとは別個のものと云はねばならぬ。一特定地域の對内的と對外的との交通關係は全然別個の意味を持つ事に留意しなければならぬ。而して對象とする地域が特に大でならざる限り、（例へば大都市全體の場合の樣に）、重要視される關係は前述の如く對外的交通地理のそれである。

地理的關係に次いで論ぜらるる可きものは「人口」であらう。此の項目に就いては、普通に行はるゝ人口調査が妥當する。靜態人口と動態人口。性別・年齡別構成。世帶構成。更に吾々は此の項目中に其の地域に於ける人口の居住狀態を加へても差支ないと思ふ。第一に本籍關係、次に出入寄留關係、而して更に調査し得べくんば、居住者の居住年限。移轉頻數等々。本籍及び寄留關係は比較的簡單に知る事が出來よう。之れによつて吾々は其の地域居住者の土着性外來性を識る事が出來ると思はれる。此の場合居住者の土地定着性は、居住年限に就いての調査によつて補足されねばならぬ。本籍地關係は、都會人にあつては多分に游離してゐるから、入寄留者と雖も充分永く定着的に居住してゐる者があり得る。移轉頻數の調査は是等項目中にあつて最も困難なものであらう。是等の點については調査方法の如何を考案しなければならぬ。

「人口」に關しては更に職業及身分の條項がある。職業に關しては、往々、産業的方面と交錯する傾があり、其の故に産業及び職業として別項に取扱はれても差支ないかも知れない。身分に關しても同一である。例へば家事及び營業使用人は、職業的に分類區別され得る。唯、産業については産業的活動を主眼とすれば、居住者の職業及び身分を主眼としては是等の條項に於いて論じても差支ないと思はれる。身分構成として、今回の「三田」社會調査に用ひられた方法は(一)純粹家族――但し近親及び雇人、同居人に非らざる寄食者を含む（二）使用雇人――家事及び營業（三）同居人及び下宿人に分けた。生活樣式の相違からアパート居住者を別個に取り扱つたが、之れは純粹家族、其の他適當の項目にそれ〴〵整理分類せらるべきである。

職業に關しては、唯單に産業別技術別のみならず、此の方面に於ける身分別分類をも併用すべきである。今回の調査では居住者を大體業主と勤人とに分類した。同時に業主としても、其の地域に於いて現實に何等かの營業を經營する者と、他の土地に於いて、それを爲す者とを區別しなければならぬ。身分別分類は勤人の場合に於いて最も

重要となる。高級の官公吏、會社員から下級勤人に至る迄の分類を幾階等かに整理しなければならぬ。

吾々は是等の分類法を用ひて既に若干の効果を上げてゐる。例へば使用人中に於いて、家事使用人と營業使用人との割合は、使用人總數が增加すればする程、後者即ち營業使用人の割合が大となつて行くものゝ樣である。又此の兩者の割合は其の地域又は地區の性質を物語るものゝ如くである。例へば、家事使用人の割合が比較的に大なる所は住宅地的であるが營業使用人の割合の大なる所（從つて使用人總數の比較的に多い所）は商業地又は工業地的である。業主、勤人の分類によつても同じ事が云へる。一地區乃至一地域の有業者中勤人の多い所は住宅地的であると云ふ數字が出る。

之れに關聯して、勤人階級に於ける階等の分類及び一世帶に於ける有業者數の比率は住宅地そのものゝ等級を示す手段となる。後者に就いて云へば住宅地の高級なる場合、一世帶當りの有業者率が低下し、大衆的な場所では反對になる。一世帶當りの家事使用人割合についても同じ事が云へる。

故に總人口に就いて、それと純粹家族總數との相違が甚しい地域は主として商工業地的だと云ふ事が出來、之れが又前に述べた年齡構成の上に於いて特異性を示して來る。即ち、純粹家族の年齡構成は比較的に正規ピラミッド型になるに對して、かゝる地域の總人口年齡構成は中段部の膨れ上つた特異的なピラミッド型を現出する（「三田街」社會調査に關する、此の方面での暫定報告としては雜誌「都市問題」昭和十一年二月號に於ける拙稿を參照）アパート居住者は既に述べた樣に純粹家族として取扱はれ、その附屬人口はそれ〴〵の項目に分けられるが、住宅樣式が特異なる爲め、何等かの特殊性を示すものと考へられて、今回取扱つた事例に於いては、比較的に幼年人口が多かつた。此の事はアパートが少家族員によつて利用されてゐる事を示す。勿論、アパートの種類即ち獨身者的、家族的アパート等の種類に於ける相違は尊重されねばならぬ。從つてアパートの比較的に多い地區は、何等かの變化を示す事となる。下宿屋の場合も亦同じである。此の場合に於いては勿論、成年、大體に於いて靑年人口の比較的膨脹を見るであらうし、又性別構成では男性の比較的優勢を生み出すであらう。

なほ「人口」に就いては調査すべき重要な項目がある。それは、前記の身分情況と相對應せしめて、其の地域又は地區の「富の程度」を求める事である。此の調査は地域の富裕さを檢出するものであるが、其の方法としては、所得又は營業收益等について何等かの方法で調査するの外はない。勿論、他の補助的方法によつて、之れを補正する事を得る場合もある。例へば地價、及び土地家屋の賃貸價格、乃至は一般家屋の規模其他等について調査し得る限り、補助的材料となり得る。しかし、此の種の調査は、最も成績上に効果を期し難い項目であると思はれる。實地調査——例へば質問書配布によつて記入を求めるが如き方法によつて果して幾許の成功を納め得るや頗る疑問である。先頃行つた慶應義塾學生の生活調査に於いて父兄の職業と共に其の收入年額の記入を求めたが、收入項目に於ける記入率は七割前後であつた。但し其の記入數字について果して信用を置き得るや否やと云ふ事を懸念したが、整理後の結果によると大體正確を報告したものでは無いかと思はれる。何故と云へば、父兄職業との關聯に於いて之れを整理した結果、職業及び職業上の身分の異なるにつれて收入金額に一定傾向の相違を示し得たから。簡單に

云ふと年收金額階級に於いて上位を占めるものは高級勤人、即ち重役級の地位にある父兄であり、最低の階級を占むる者は一般社員級の勤人であつた。獨立の業主と思はれるものはその中間に在る。しかも、一般社員の場合に於いてはその總數の殆ど全部（九割强）が此の下位を占めておるに反し、業主及び重役の場合には、なほその中位及び上位の前後に可なり多くの階級が散在してゐる事實が示された。即ち勤人中の一般社員的のもの、收入は最高額と最低額との偏差がそれ程大でないと云ふ事實を示してゐる。

故に所得調査は或る程度の調査成績を收め得るものと思はれるが、それにしても、調査諸項目中、最大の難關と云つて差支なからう。

四

「人口」に次いで調査すべき項目は「産業」或ひは「經濟」であらう。此の項にあつては其の土地の各種經濟及び産業的活動が調査の對象となる。主要な部門は商業及び工業であるが、之れはその土地の如何によつて當然、他の項目が有力になつて來る。都會近郊にあつては、或ひは農業が、沿海の地方にあつては漁業又は水上交通業が優勢を示す事は歴然であらう。ある都市、殊に學校官衙或ひは軍隊等を中心とした都市にあつては、産業的區別としてではないが、公務自由業者が優勢を示すであらう。故に調査すべき土地の性質によつて此の點は非常な變化を見せるものと云はねばならぬ。唯、經濟活動として見るならば、如何に微力にもせよ、商、工業の二大項目は省くを得ない。今回の調査に於いても、經濟的活動としては、商、工業の兩者を主としてゐる。地域の總人口中有業者を

求め、之れを業主、勤人に分類した事は前記の通りである。之れを更に各種の職業に分類してゐる。其の結果、農、商、工の外に交通業、公務自由業其の他の職業が示されて來る。しかし主要な經濟的活動としては依然、商業と工業とが首位にあるので、之れに就いては多少とも詳細に調査してある。

商業については、詳細な調査は、その土地の商業的活動が如何なる性質のものであるかを明かにするであらう。例へば唯單に其の附近の土地に對する物資供給の活動に止まるか、或ひは外部地方に積極的に働きかけてゐる大商業的性質のものであるか。此の點で、冒頭に述べた、取引領域の査定が重要な問題となつて來る。「盛り場」は娯樂的中心であると同時に重には商業的中心である。故に其の勢力圏が大であれば、其の地域地區は、全體に對する關聯に於いても商業地とはならない。「三田街」の調査に於いては、二、三の商業地區を指定する事が出來る。しかし其の活動は大體「三田」全體（今回の調査區域）に於ける對内的のものであつて、對外的意義を持たぬ樣に思はれる。それ故に「三田」それ自體は毫も商業地帶的ではない。その内部の若干地區は「三田」に對して商業地的ではあるが。

商業的活動の調査については、商業分類中に於ける細目が又重要な調査事項である。一般物品販賣業とか金融業とか乃至は接客業とかは別個に調査されねばならぬ。是等小分類による商業活動の内容的構成は地域調査について見逃し難い點である。同樣に商業活動の單位又は經營の方法乃至は規模についても、調査によつてその體樣を檢出しなければならぬ。卸商・小賣商・會社營業・個人營業等にも亦當然注目せらる可き項目である。是等についての調査

は、既に述べた様に調査地域の産業、こゝでは商業的活動の性質を指示すると共に、又その居住人口の社會相を物語る事にもならう。

工業活動についても同様である。此の地域がより大なる全體との關聯に於いて工業地帶的であるか否やは此の調査を俟つて決定されるであらう。此の場合矢張重要なのは、工業種目の問題である。例へば一括して工業部門に入れられ乍ら著しき差別を持つものがある。例を擧げて云へば、大工、左官、建具屋等が金屬・機械製造工場等と共に一括される。洗濯屋も工業なれば、洋服裁縫も亦工業部門に加へられる。菓子製造もさうである。最後の場合は大資本の製菓工場と、餅菓子屋とが同列に取扱はれたりする。

故に之れに關聯して調査地域の性質を決定するに當つて、注意すべき事項が在る。即ち、同じ工業部門でも、假りに大工、左官、建具屋、洋服裁縫、靴屋、菓子屋等々の場合にあつては、特殊的ならざる限り、その存在は對内的のものである。反之、機械工場、金屬工場、電氣器具工場等々の場合に於いては、多分に對外的性質のものとなり、是等の要素が有力なれば其の地域は工業地帶的になる。斯くの如き觀點を以つてすれば今回の「三田調査」では、その一部に本格的の工業要素を相當に檢出し得た。故に再分類に於ける各種工業種類は充分に整理されねばならぬのである。

其の他工場の數、規模等々が再び取扱はれなければならぬ事は、商業の場合と同じである。そして双方共又、特定の種目が特定の立地關係に在るものなるが故に、精密な調査が當然要求せらるゝワケである。

産業及び經濟活動の調査にあつては、活動の種類及び規模の外に、普通はその成績、即ち、取引高、生産額等が調査せらるゝ。吾々の調査に於いても當然之れを省略するワケには行かぬ。此の項目に於ける數字は、尚該地域の經濟的活動力を示す指針となり得るから。

五

産業に就いてなほ述ぶ可き、又調査すべき項目も多々あらう。しかし更に次の項目に移らう。第四に採り上げらるのは、最も漠然たる用語法による「社會」である。此の項目は、其の内容を再分して、その一つ〳〵に獨立せしむ可きであるかも知れない。唯大きく一括して假りに「社會」の項目としておく、其の再分せらる可き内容は次の如くである。

先づ第一に「政治及行政」の項目がある。之れは單に官公署的のもの丈けでなく、町會、寄合等の如き、其の地域の輿論機關等を加ふべきものである。更に選擧の際に現はれる、有權者數と投票又は棄權比率、政黨的地盤等は調査に値する。本稿冒頭に引照したライデン著の「大伯林」には政黨地盤が地域的に示されて、各々其の地域性を有力に物語つてゐる。又當該地域の行政施設も一括して調査される必要がある。蓋し、居住者の福祉を主眼としての地方的施設は當然、地域性を反映するから。

次に、尚ほ「制度的項目」として「教育」關係がある。普通、教育の項目に於いては、學校數、學校種類、教職員數、就學不就學の關係、更に圖書館其の他の教育機關が調査される。しかし吾々にとつては「教育」情況それ自

體が研究の對象となるのではない。特定地域の特殊性を物語らしめる爲めに、その說明として調査されるのである。故に、教育關係の全部が均等に吾々の問題とはならぬ。例へば吾々にとつて重要なのは、所在する學校種類の問題が第一である。大學・高等・專門學校・中等學校・實業學校・小學校・幼稚園等々、如何なる種類の學校が所在するか、小學校の場合は大體公立小學校が優勢であり、其の結果、地域的な統一性を確保してゐる。唯、此の場合に於いても特別の學校、例へば慶應義塾幼稚舍の如きは、此の地域性を全然無視してゐる。芝區居住者の多いのは判つてゐるが、(一〇四名)之れに次いで品川、澁谷、麻布、大森(七〇名內外)となり、更に三〇名前後の市外通學者を有する。中等學校も同樣に大體に於いて少しその範圍は廣くなるがローカルである。反之大學校は極度に集中して、大都會的である。それ故に、特定地域內に在る學校の種類如何は、多分に、土地の性質を語る。學校街は其の代表的なものである。

此の關係を逆に考へると、其の地域內の居住者の就學者を調査すべきである。今回の「三田街調査」に於いても若干の効果が此の方面に擧げられた。即ち學生及び生徒を、其の學校等級(大、中、小及び實業其他特別の學校等)に分類し、その就學者に就いて見ると、幾分の地域性が示された。殊に實業及商業學校、同夜學校の生徒の場合に就いて顯著な地域性を示してゐる。

紐育市グリーニッチ・ヴィレッヂの調査者は、小學校轉校者の方向に就いて調査してゐる。轉校生徒の多寡、その出入は、勿論、地域の流動性從つて職業的身分的構成を物語る指針となる。同時に學校を通じての其等の生徒家庭の調査は重要な援助でもある。轉校者の方向とは、前就學地或ひは新就學地との關係である。其の間に官公吏、又は會社員的に勤務關係による轉校關係もあらうし、更に社會身分的な昇降に基く移動もあらう。それ故に、調査せらるゝ地域の如何によつては、此の轉校事實による諸關係も、無視する事が出來ない。

「宗教」も亦、調査に値する項目であらう。しかし吾々は此の項目に就いては、特別の場合を除く外、特に重點を見出せない。特別の場合とは、神社寺院等々の勢力が極めてその土地に有力な場合であるとか、特定宗教(例へば基督教)の勢力が特に著しいとか云ふ場合を指す。前の場合には、宗教都市又は狹い地域としては、各所に見るが如き「寺町」の例を擧げる事が出來、後者の例としては、各宗教・宗派の社會層に關聯せしめ得られるからである。例へば基督教々會は下町に少くて山の手に多い。

次に「娛樂」機關及び施設の項目に移らう。此の項目は、調査上最も複雜且つ多岐な項目であらう。從つてこゝでは簡單に吾々の調査の對象となり、且つその意義を有する事項を說明するに止める。第一に娛樂機關であるが、劇場・寄席・映畫館等々に就いては當然その種類及び規模が調査されねばならぬ。同時に其の內容即ち上演せらるゝ興行ものゝ內容に就いての檢討が必要である。映畫について云へば、日本モノ、西洋モノは區別せらるゝであらうし、同じ種類のものでも、その土地柄に應じて人氣の集中に相違が生ずる。觀客層の反映と云ふ現象がこゝに捉へられる。劇場、映畫館等の所在については、第一流のものは都心地に集中する傾向があるを以つて、或る地域に於いては、其地に居住する人々の社會層に應ずる樣な、それ等のものが(殊に高級の設備が)全然存在しないと云ふ

事になる。此の場合、其の地域の居住者は、此の種の欲求（高級映畫觀賞慾）を自己の地域内に發散せしめずして、その爲めには他の地域に赴く事となる。

麻雀、撞球、圍碁、將棋等々の遊戲場、ダンスホール等々の娯樂場の種目及び數、規模等に就いても之れと同樣に充分な指針として調査材料たり得る。飲食店は、商店調査に於いても取扱はれ得るが又、一つの娯樂施設として茲に取扱つても差支ない。

次に運動場、遊園地、公園等々の市民保養休息の設備も調査され得る。吾々にとつて最も興味ある、此の方面での都會的施設としては小公園、兒童遊園等である。是等の必要とせらるゝ場所は當然、地域的に特定され、其の結果、その地域社會の性質を指示し得るからである。

「盛り場」は一つの娯樂機會である。それ故に、飲食店の場合と同樣に之れ亦、此の項目に於いて論ぜらるゝかも知れない。同樣に緣日、夜店等に就いても同斷である。

「社會」關係に於いては尙ほ、社會的施設、社會事業施設等に就いて調査の手を延ばす事が出來る。東京市に於ける要保護世帶は、判然と地域性を示す。それ故に、直接には社會事業關係の機關の有無、並びに庶民的問題を處理する意味に於いての社會的施設、例へば公設市場、公設質屋等の如き機關の所在に就いても一應は問題となり得る。醫療機關の分布、所在等も問題とするを得るであらう。例へば或る土地又は地域は特に醫療從事者が多かつたり、或ひは少なかつたりする樣に見受けられる。

社會力としての新聞、雜誌等の如きものゝ地域性も此の「社會」の項に於いて取扱ひ得べきである。頒布せらるゝ新聞及び雜誌の種類又は傾向が其の地域を物語る事ならう。流行も亦た社會力として、吾々の調査の好個の主題たり得る。但し此の場合は、流行を支配する各方面の機關、主として商店等に就いて調査せらるべきであつて、文化的方面から分析せられた商業調査となつて現はれるであらう。

犯罪現象の調査も亦利用せらるゝであらう。都市及び農村に於ける犯罪性に差異が示さるゝと共に、ある地域については、犯罪現象の特殊性を展開するであらう。之れを併せて地域の風俗習慣等亦、調査し得る限り利用せらるべきである。

「社會」の項目は、其れ故に複雜多岐である。なほ、綿密に穿鑿して行けば、殘された方面が少くないであらう。しかし吾々は、こゝで問題を一轉しようと思ふ。

六

今迄、述べ來つた所は、一定の地域社會の性質を確認する爲めには、其の社會體が「人口」と「地理」とその活動即ち「産業」と其の生活即ち「社會」との四方面から成るを以つて此の四大主要部門に就いて調査すべきである事を說明した。目的とするところは、其の地域（社會體）の特殊性を描出するのにある。（一）如何なる土地に、（二）如何なる人口が（三）如何なる活動を行つて（四）如何に生活してゐるかを知り、依つて以つて之れを表現せんとするのである。故に、吾々調査者にとつて最も重要な點は、何が最もよく、其の土地を物語り、その人口を物

語り、その活動を示し、其の生活を表現せしめてゐるか、と云ふ點について、最もよき指針を捉へる事である。上來述べた所のものは、此の四大部門についての基本的事實であつて、地理的記述、交通統計、人口統計、産業統計、社會統計等々公私の文書等によつて先づ基礎資料を蒐集すべきである。是等の基礎に據つて更に吾々は、諸種の事實、數字、關係、物象をして其の地域の特殊性を物語らしめなければならぬ。玆に於いて、何を吾々はその指針たるべきものとして調査するかの問題に入る。こゝに指針たる可きものは調査の具體的事項である。例へば、驛に於ける乘客調査の例を採る。驛當局としては、之れを營業上の材料として調査するであらう。即ち、何時頃が最も乘客が混雜するか、一日中その繁閑の偏差は如何、等の關係を探らうとする。これは乘客量の調査である。既に此の調査が驛を中心とする一定地域の性質を一應吾々に明かにして呉れる。即ち、交通頻繁の土地か或ひは閑疎の地かを知らせる。同時に、一日乘客の時間的調査は、交通機關運轉の方針を定むるのみならず、同じくその土地の性質を物語る。朝の乘客、夕の降客はその土地が他に中心を持ち、之れと不可分的に結びつけられた周邊地域である事を示す（東京市市電乘客についての調査を「大塚地理學會論文集」第三輯、牛山喜氏の論文に於いてみよ）此の關係は更に乘客種類、即ち定期券乘客普通券乘客についての調査によつて確められ、又乘車方向の調査によつて更に確定される。斯の如くして、吾々は昇降乘客量其の時間的偏差、乘車券種類、乘車方向等に就いての一定の關係を以つて、其の土地の特殊性を物語る指針たらしめる事が出來る。從つて、吾々にとつて此の指針たる諸關係は調査の具體的事項である。此の具體的事項即ち指針の發見は、吾々調査者にとつて最大重要事である。

然らば、今、問題としてゐるが如き調査に於いて何を指針たらしむ可きか。之は簡單に又言葉少く答へ得る問題ではない。蓋し人間の社會的生活はその環境との相互作用に於いて複雜な關係を生み出すからである。然かも、其の關係は正又は反の異つた方向を示す事があらう。故にある一つの事實又は現象は常に特定の關係の存在を指定するとは云へないかも知れない。逆に、反對の關係又は事實の存在を指示するかも知れない。或ひは又偶然的な一致の場合もあらう。其れ故に調査者としては、よく具體的事項の調査に先立つて、それらの事項が指針たり得るや否やを檢討しなければならぬ。

是等の調査上の注意にも拘らず、調査すべき從つて指針として役立ち得る、具體的事項は相當に多い。否むしろ、想像力の豐かな、調査者は隨意に、諸種雜多な事項を擧示し得るであらう。例へば各地區又は街頭に於ける歩行者の歩行速度は、其の地區又は街頭の性質を示す指針となり得る。都心地の停車場から每朝吐き出された通勤者の歩行速度は、「盛り場」を樂しむ人々の速度に比して遙かに大である。それ故に「銀ブラ」とは名づけられたのである。或る者は各電話局の一日に於ける電話呼數の時間的增減を以つて其の電話局管內の地域性を示し得た。ビジネス・センター型、住宅地型、盛り場型等が電話呼數の時間的變化に現はれる。嘗て、東京郊外住宅地の地域調査者に「錢湯」の有無所在を調査事項たらしめた事があつた。之れは「自家浴室」の所有者と「錢湯」利用者との生活狀態にある相違を豫想したからである。本稿の冒頭に揭げた「グリニッチ・ヴィレッヂ」の調査者は、街頭の商店及び飾窓を簡單に描寫して、其の地區の特色を示してゐる。（四四頁參照）此の點からして、小說及び新聞社會面記事等が有

力なヒントを與へる事がある。例へば、吾々は今日「アパート生活者」なるタイプを既に定め得ると云へないであらうが。學生服裝について觀察して校風を推測した觀察者もある。(「文藝春秋」昭和十年十月號小泉丹氏)

斯くの如くして、吾々の研究の指針となし得可きもの、調査の具體的事項たり得るものは頗る多い。モデルノロヂオ(考現學と稱せらるゝ)の取上げる諸事實は、或ひは何等かの關聯を見出すを得ば、立派に指針として役立ち得るかも知れない。(今和次郎氏著「モデルノロヂオ」參照)唯、吾々調査者に於いて最も戒心すべきは、調査上の興味に引きづられて、根本を忘れて末節に墮し、興味本位面白半分に陷る危險に近いと云ふ事である。

商店街調査は、既に商業及び娯樂の項に於いて述べた様に、地域調査に於いては最も重要な研究題目の一つである。何等かの統一性を持つた地域社會は、其處に大なり小なりの中心地、大體に於いて商店街として現はれた「盛り場」を持つ。之れは都市計劃技師石川榮耀氏の好んで說く所である。故に商店及び商店街の調査は、吾々にとつては、重要なポイントである。此の場合、如何なる指針が與へられるか。商店街の店舗構成を求めるは宜し、嘗て本誌に於いて「盛り場」に就いて論じた時、商店街は其の店舗構成の如何によつて、數等級に分けられると云ふ研究を紹介した事がある。(三田學會雜誌昭和十年三月號)又、特殊專門商品の店舗は、その土地(都市又は町村)の人口數に關係があり、又特定の地域的のものであると云ふ研究も合せて紹介した。是等の研究の結果、商業活動を通じて特定地域の特殊性を窺ふには、精密な指針の案出を必要とする。例へば貴金屬、時計商と云つても、一流商店街のソレと郊外盛り場のソレとの間には、同一に取扱ひ得ない相違がある。煙草屋の如きに至つても同樣である。

中心地の煙草專門店乃至は高級煙草を用意する店舗と、郊外場末の荒物屋の一隅とを一緒に論じ得ない。各煙草店に於ける賣行が如何なる煙草種類に集るかは、多分に地域性を示す。此の方面に於ける嘗ての調査によれば東京市について見れば、葉卷煙草の賣行は「日本橋、京橋」の所在の煙草店に集中してゐる!!

飮食店に就いても同じ事が云へる。都心地の一流料理店と、場末の小料理屋とは一緒にならぬ。第一流「盛り場」の喫茶店と郊外驛前の喫茶店とは比較にならぬ。それ故に、此の方面の研究者に、各喫茶店に於ける飮食物の種目(殊にそのヴァリエイション)及び値段の調査を命じた事がある。紅茶、珈琲にスペシャリティーを示すは困難としても、ソーダ水の味、アイスクリームの種類の如き普通の飮物にさへも、其の店舗と其の地域とによつて相違が在る!!　理髮店に就いても同じく、其の料金及び調度、設備並びにそのサーヴィスを基として、階級を分かつ方法がある。斯くの如き方法は、各商店の經營內容(例へば賣上、資本、店舗規模等)に就いて、立入つた調査を行ひ得ぬ場合、所謂外部的觀察者としての調査の場合には、一應考慮されて然るべき點であらう。

七

斯くの如くして、或る事實又は關係を語らしむ可き指針、從つて調査の具體的事項は、無數に之れを檢出し得べく、恐らくは枚擧に暇なきに至るであらう。而して、此の種の方法の危險は徒らに、諸の項目を捉へ來つて、その調査結果の面白サに耽る事である。茲に於いて、調査事項の嚴密なる撰定が行はれねばならぬ。此の嚴密なテストによつて、指針としての資格が確立せられたる場合にのみ、吾々は調査事項として、之れを取上げる事が出來る。然ら

ば何を以つてそのテストとするか。此の點に就いて聊か述べる。

單なる事實と其の表示は、その儘では指針とならない。例へば人口である。人口の一定量、或ひは其の年齡及び性別。此の事實と其の表示（國勢・戸口調査）、――之れ丈けを以つてしては、未だ何事を語り出さぬであらう。或ひは、商店街――商店が幾許、其の種類如何、唯之れを以つてしても指針とはならぬ。從つて或る事實の存在、及び其の表示は直に吾々の云ふ指針ではない。之れが指針たるには、是等事實が何を意味するかを問題とせねばならぬ。換言すれば是等事實の意味付けが必要である。人口に就いて云へば、人口の年齡構成に於いて現はし得た斯々のタイプは何を意味するか、性別構成の比率は何を意味するか、面積に對するその人口量の割合、即ち密度が斯々である事は何を意味するか。此の意味についての探究が成立せねば、具體的事實は單なる事實其の儘で終る。然ら ば、此の意味づけを行ふものは何か。それは理論である。人口に就いて云ふならば、諸々の事實及び關係の意味づけは人口の社會・經濟理論によつて爲される。年齡構成が正規ピラミッド型を爲すは、人口理論の示す所である。之れが如何なる場合に歪曲するか。其の理由として、例へば都市人口集中に伴ふ成年人口の比較的增加が擧げられる。從つて、流入成年人口のみを以つて成る地域に於いては、最も甚しき歪曲が生ずる。米國大都市に於ける第一次移民居住地帶の如き其の例である。或ひは商工業地帶の如く、普通家族の外に主として獨身成年人口を多く雇傭 居住せしむる地域は之れに從ふ。密度に就いて云ふならば、產業立地の關係から、農村的密度都會的密度、乃至は密集を事實として擧げ得る。都會內部にあつても獨立住宅的地帶に於ける比較的粗なる密度と、商工業地帶的重密度、

又はアパート等の高層住宅形式による密度等を區別し得る。性別に就いては、職業人口が主として男性である限り總人口に於いて比較的に女性の割合に大なる所に住宅地帶を求め得る事は、本文の前條に述べた通りである。

斯くの如き、（吾々の專門研究內にあつては主として）社會・經濟理論が、特定の事象をして、特定の事實及び關係を語らしむるを許す。商店街の場合を例にとらう。商店街構成については、商業立地論が吾々に理論を提供して呉れる。店舖による商業は顧客來店の最も利便の地點を撰ぶ。同一力に於いて最も多くを、吸收し得る地點は圓の中心である。茲に於いて、中心地帶（勿論交通地理的中心地）に商店は蝟集する。各種商店は相互に吸引し合ふ事によつて益々顧客量を增大せしめる――之の顯著な例を現代百貨店に見る――。故に一定地域又は地區に於ける商業的勢力の優大は其の地區の商業性を物語る。商店數又は商業世帶數、商業使用人數等々は、全體に對するその比率に於いて、此の指針と爲る事が出來る。都市全體の如き全般的事象を問題とすると、地域的な特殊性は消滅するかも知れない。然かし、其の場合に於いても、吾々は特に商業都市的なるもの（從つて又、工業都市的、消費都市的なるもの）を見出す事が出來る。（大塚地理學會論文集第三輯鹿又義英氏論文）

斯くの如き、社會・經濟理論に就いて詳細に論ずれば、それ又、一個の獨立の論文となるであらう。それ故に、こゝでは省略して、唯、吾々調査者が調査の具體的事項として採取するところのものは、理論によつて、意味づけられたものでなければならぬと云ふに止める。本稿の前段に於いて「豫想によつて導かれる」と云つたのは、此の意味に外ならない。

更に調査の具體的事項を撰定するに當つてなほ調査技術上、留意すべき諸點がある。先づ第一にその事項が調査事項となり得るや否やの點である。如何なる方法を用ひて調査するにしても、亦、調査者が誰であるにしても、調査事項の如何によつては、調査にのぜる事の比較的に困難、從つて調査成績の優良を期し難い事項がある。各個人の日常生活内容の最も私人的な方面、或ひは營業上の機密に屬する事項等はそれである。本回の學生々活調査に當つて結婚配偶者關係を調査の一項目とした。配偶者の有無を基本とし、更に「有」の場合には婚姻關係について「正式・内緣・同棲」の三項目に分けた。學生時代に於ける妻帶者が少ないのは當然である。故に「有」それ自體が少かつたが、その内にも「内緣、同棲」の項に答へた者は遂に見當らなかつた。之れは此の兩項目に於いては「無」が事實であつたのかも知れない。併かし、若干の「有」が存在するであらう事も肯定され得るのでは無からうか。唯、調査し難き事項なるが故に、結果に現はれ得なかつたのでは無からうか。心理學關係者から成る或る集會の席上で學生の思想方面について、此の調査の結果を發表した事がある。その際「童貞」調査に及ばざりし事を指摘された。此の項目は、成程調査不可能では無いかも知れない（中央公論昭和十一年四月號「日本人の童貞調査」―安田德太郎氏）しかし本調査の擔當者として自分はこゝに掲げる懸念から、今次は特にそれ丈けは避けたのである。要するに若しかゝる事實ありとせば、調査者は、其の調査法を變へねばならぬ。少くとも本人の直接答申法は効果が無いと云ふ事になる。

次に被調査範圍中に於ける或る特質が調査結果に反映する點を考慮しなければならぬ。例へば調査に應ずる者は全範圍の内で皆、特定の性質を具へた者となり勝ちだと云ふ場合がある。再び、學生調査を例とすれば、今次の學生調査は、その成績約三割であつた。（配布調査表に對しては若干高率であつたであらう）。此の場合、如何なる學生が調査に應じたか、假りに調査に欣んで應ずる學生にある一定の型があつたとすれば、調査の結果にはその型が歷然と現はれて來る筈である。此の場合、一般學生の全體を調査目標としながら、調査それ自體が他のものを排斥してしまつて、一定の型のもの丈けを集めた！！　と云ふ事になる。さうすれば此の調査の結論は割引して考へられねばならぬ。今次の調査に當つて此の疑問を生ぜしめたのは、「學生居所」の區別の項目で、「自宅」の場合が非常な高率を示した。之れに對して、「自宅から通學してゐる學生が最もよく此の調査に應じ得たのでは無いか」との批評を受けた。若し上に述べた樣に、調査そのものがある型以外のものを排除すると云ふ傾向が行はれたとすれば、此の批評の如き充分に成立する可能性がある。

次に調査事項についての答申が判然と數量的に乃至は概念的又は客觀的に定められゝ場合には問題は無いが然らざる場合に就いては、唯參考、乃至は說明的の役目を爲すに過ぎない。嘗て、現代の廣告論に於いて、廣告それ自體が如何なる性質のものかと云ふ事によつて廣告者又は廣告物件の社會性が判ると論じた事がある。換言すれば高級な商品と大衆向きの商品とは、その廣告方法に於いても相違がある。チンドン屋やヂンタのある風景は、それだけで積極的乃至は消極的にその土地柄を物語る。（「三田廣告研究」第十八號「廣告と社會」）然らば「廣告」を以つて一應は地域性に對する指針と爲し得るかも知れないが、此の場合、此の調査事項は數量的に概念的に、客觀的標準を以つて

取扱ふ事の出來難い事情にある。高尙とか卑俗とかは、吾々の科學的尺度にはなり難い。しかし感覺的には最も良く說明的である。故に此の種の調査は畢竟するに第二義的なものとなる。補足的な說明的なものとならざるを得ない。然かも興味に引きづられ、調査それ自體に耽る場合には、往々にして此の方面に努力を集中するの危險に陷り易い。

八

以上、ある特定の地域的な社會體が何ものであるかを調査するに當つて思考すべき、中心的な諸問題を一應吟味して來た。尙ほ殘された問題も少くないであらう。併かし一先づ茲で結論に入らう。

吾々調査者の目的は、或る土地の上に生活する人口集團の社會的特殊性を或る事項の調査によつて描き出さうとするにある。其處で人口、環境（自然及び社會的）、活動、生活の四方面が吾々の調査の主要範圍となる。蓋し、此の四部門は、地域的社會體の全生活に及ぶからである。

しかるに吾々は、ある社會體を取扱ふに際して一定の豫想を持ち得る。何故かと云へば、個人及び特定の社會群は、その生活に於いていづれも社會的・經濟的にある烙印を刻された存在であるから。例へば俸給生活者、無産知識階級等々、今日の社會及び經濟環境の內に在つて一定の運命を擔つてゐる。恐らくその理想もその環境の內に制約されて來てゐるであらう。從つて是等の人々が如何なる職能を擔當し、如何なる經濟力を持ち、如何なる生活內容を持つかについては、吾々に大體の豫想がある。假りに蟹が其の甲良に似せて穴を掘ると云ふならば、人間の場合に於いても同じである。

是等の個人又は社會群は、全然孤立散在する事はない。同類相率くの法則が行はれて、同型同種を集めた集團が成立する。殊に、其の日常生活の表現に於いて同一集團の凝集が成立する。茲に於いて、吾々の云ふ地域性の問題となつて來る。

かゝる豫想を實證的に研究する事が、こゝに云ふ地域社會調査の任務なのである。故にそれは吾々の社會經濟理論の吟味であり、證明方法だとも云へる。若し此の吟味に成功するを得れば、或る特定地域の社會的相貌を遺憾なく顯示せしむる事が出來よう。從つて又、全體との關聯も明かにせられるを得るであらうし、全社會環境內に於ける個人の、又は個々の集團の位置も定まるであらう。冒頭に述べた個々の現象、事象が全體的經過の內に規定され把握されると云ふ命題を確立し得る事となる。

唯、此の最後の目的の爲めに、吾々が調査に當つて最も戒心しなければならぬのは、目的の爲めに故意或ひは偶然にせよ、調査を歪めてはならぬと云ふ事である。然かも、前に述べた豫想は往々にして吾々を既に定められた一定方向へと導き易い。茲に於いて調査は多角多方面に渡つて吟味するの必要がある。之れなくしては、個々斷片的の調査は全然無意義となる。要するに社會科學論上に於ける一方法として社會調査の意義があるは、此の全體的關聯の一環としてゞある。此の最後の意味に於いてのみ、吾々はかゝる方法、補助的技術を尊重する。

追記

從來自から行ひ又は研究會所屬會員に行はしめてゐた諸調査について、具體的に論述すべきであつたかも知れないが、

今回は調査方法についての考察に止めておいた。慶應義塾學生々活調査の報告は既に本誌に於いて二回發表した。内部的な項目ではあるが「學校に對する希望」も既に發表した（「三田評論」本年四・五月號）此の學生調査は整理がほゞ完成した故に近く何等かの方法で纏めたいと思ふ。「三田街社會調査」に就いても其の發表の機會を得たいと思つてゐる。最近又、地域調査を行ふ計畫があるので、之れを、從來調査したものゝ成績を反省しつゝ一纏めにしたのである。諸賢の叱正を得れば頗る欣幸である。

（昭和十一年五月二十五日）

教會法の理論として現はれたる自然法の觀念

打村鑛三

本稿は素と後續の機會に於いて發表を豫定する別の拙稿『中世基督教會と婚姻――古代・中世に於ける自然法とその實證法的適用』の記述の一部を爲したものであるが、同稿一篇を通じての論述とこの部分との釣合――主としてその論文の構成上より云つて、長きに失したるの結果、同篇に於いてこの部分に當るところは別に適當と思惟する記述を以て之れに代え、一方取り除きたる一括の記述を、これに必要の添削を加へ、一個獨立の論稿たるの體裁を得しめて先づ茲に本誌の紙面を借りた。自然本篇は、獨立の論文としては、實は前記論稿の中に在つてその論證を援くることに依つてはじめてその意義と、多少の價値を有すべき資料的性質の記載を含むことを憾とすれども、猶ほ姑らく之れに前揭拙稿に於ける該當部分に於ける論述の補充的（且つ伏線的）役割を勤めしむるの意に於いて茲に紙幅を領することの許を乞はんとするものである。尚ほ彼此の記述に重複あらんことは努めて之れを避け、同一事を云ふの不可避に當つても、能ふ可くんば別の材料、別の論法を以てすることに注意したのであるが、尚ほその性質上、多少の重複は之れを免れなかつたことを附記する。

一

基督教會の信徒に對する法的規制が、所謂不法の法 quellenwidriges Recht として存在したのは可成りに古い時代からのことである。或は能く之れを使徒時代にまで溯り得るとさへ稱せられる。(1) 乍併固よりそれは國家の法とはお互に何の拘りも無いものであつたのだが、茲に中世加特力教會が俗世間に對して行ひ得た法的制壓――教會